

# 自ら成長する教養人の育成支援プログラム

—アナログ・デジタル両手法を活用した成長度に応じた能動的 キャリアアップ・人間力涵養システムへの変革—

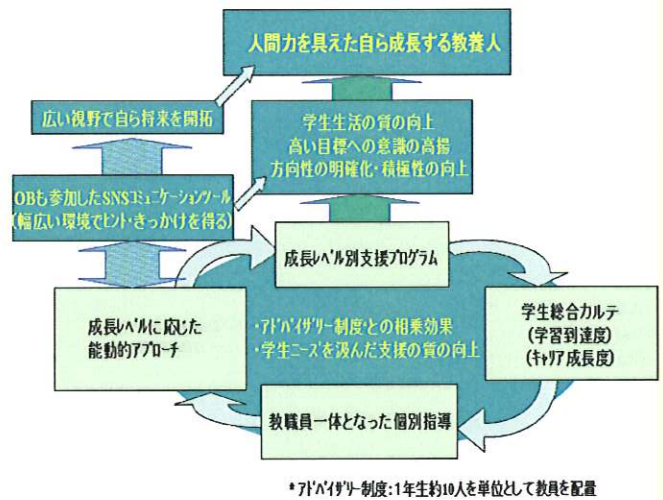
## プログラムの概要

学生にとって、基礎学力・専門知識に加え、職場や地域社会から求められる社会人基礎力を身につけることが本学の教育理念実現への道程であり、教員及び職員の指導・支援のもとに学生自らが能動的に行動し、真の教養人へと成長していくことが重要である。

この課題に対し、在学年次を問わず学生個人の成長レベルに応じて、学生がキャリアアップを図りつつ様々な角度から自分自身を見つめ、社会ニーズを経験を通して理解する機会を与える。併せて個別対応を中心とした学生ニーズの把握とフォローアップによるフィードバックによって、総合的な人間力涵養に向けて成長する教養人として学生を育成することを目指している。

具体的には、教職員との対話や社会人基礎力を養う表現力養成講座等のアナログ的手法と、ICT技術を活用した学習指導・支援(学生総合カルテ)やSNS同窓会等のデジタル的手法を併せて活用し、より効果的な学生支援システムへと展開する。

## 本プログラムによる成長のイメージ

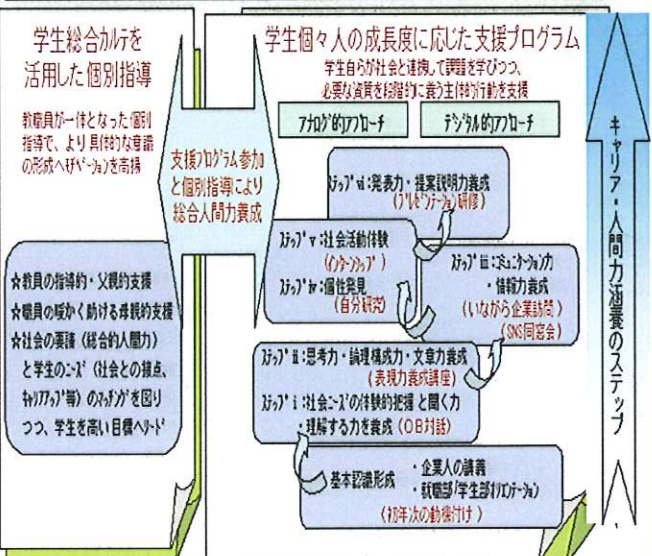


## アナログ・デジタル両手法のイメージ



## Best Care, Best Successのさらなる発展を目指して

年次ごとのキャリアアップ支援プログラムから、成長度に応じたトータル人間力養成支援プログラムへの変革  
 ・学生の能動的参加を奨励  
 ・学習到達度とキャリア/人間力成長度を個別指導に反映  
 ・大学の枠を超えたOBを含めたコミュニケーションネットワークの活用で自らも成長



# 自ら成長する教養人の育成支援プログラム

・アナログ・デジタル両手法を活用した成長度に応じた能動的キャリアアップ・人間力涵養システムへの変革。

## 【アナログ的支援】

**表現力養成講座**を実施し、自分の考えを的確に表現し相手に伝える能力の養成を支援する。特に文章を読む力、書く力の養成を行い、さらに文章及びプレゼンテーションによる表現力の養成を行う。

## 文章力養成講座(連続講座)

今日の大学生における表現力、とりわけ「文章力」の低下が指摘されている。企業の採用担当者の意見としても、「大学に強化してほしい教育とは何か」との問いに対し、「文章力を養成すべき」との意見が多い。

このことは、特別な学問的知識を求めているのではなく、「大学生として」最低限の能力を身に付けさせ、輩出してほしいという当然の要求である。

「表現力の養成」を学生支援GPにおけるアナログ的支援の大切な課題であると位置づけ、2008年度は主に2年生を対象に、連続10回の課外講座を開講した。授業終了後の夜間に開講し、講義一辺倒のスタイルではなく、毎回文章作成、添削、議論、意見交換を中心とし、文章表現を基礎として自分の考えを的確に相手に伝える力を養成している。今後、学生のニーズを調査したうえで、2009年度以降、一層充実させる予定である。

2泊3日で、携帯電話やインターネットから隔離された空間で、指定図書の中から希望する図書を読み込む。プログラムの最後に「本の紹介」のプレゼンテーションを行うことを目的として、グループ単位で取り組む。

指定図書については、内容を客観的に読み込み、要約し発表することを目的としているため、小説・随想等は除外し、新書、両論が述べられている図書等、計15冊を指定した。学生はどれか希望する1冊を指定し、同じ図書を選択した学生とグループを作り、読書から発表までを全てグループ単位で活動する。集中して文章に親しむ時間を過ごし、仲間との共同作業を経験し、人前でプレゼンテーションを行う過程から、表現力・コミュニケーション能力等の養成を目指す。

表現力養成講座は、人と人との対面の活動を通して人間的な成長を促すプログラムであると位置付けている。2008年度は、連続講座において表現力の基礎を体得し、さらに合宿講座において非日常的な時間を過ごすことで、さらなる能力向上を促すものである。2009年度以降、今年度の実施内容を振り返り、一層のプログラム充実を図っていく。

## 【2008年度第1期プログラム】

期間：11月～2月の間 合計10回 授業終了後の夜間  
受講数：16名

- ① 文章表現の基本(話し言葉と書き言葉、主語と述語)
- ② 文章表現の基本(記号の使い方、引用の仕方など)
- ③ 文章作成1(身近な題材を用いて600字程度の文章を作成)
- ④ 構成とアウトライン(文章構成の基礎を身に付ける)
- ⑤ 事実の記述と意見の記述、出典の書き方(事実と意見の相違)
- ⑥ 要約(資料を正確に読解し、まとめる力を養成する)
- ⑦ ディベート演習(資料をもとに意見発表を行う)
- ⑧ 文章作成2(⑦で発表された意見を踏まえて文章を作成する)
- ⑨ 手紙の書き方と敬語(手紙文のルールと敬語の用法)
- ⑩ まとめ

## 表現力養成合宿(2泊3日)

### 【合宿講座プログラム】

日時：2月25日(水)～27日(金)2泊3日  
場所：滝野青年山の家(札幌 携帯電波圏外)

- 1日目：読書
- 2日目：読書、グループ内での討論、要約発表の準備
- 3日目：グループ毎に発表



日本で唯一、未来を創る光サイエンスを学ぶ

千歳科学技術大学

学生総合センター就職課

〒066-8655 北海道千歳市美々758-65  
TEL(0123)27-6136 FAX(0123)27-6172  
e-mail employ@guppy.chitose.ac.jp

# 自ら成長する教養人の育成支援プログラム

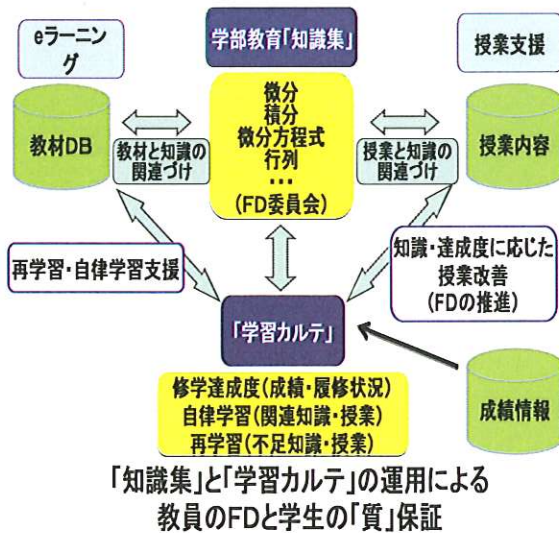
アナログ・デジタル両手法を活用した成長度に応じた能動的キャリアアップ・人間力涵養システムへの変革

## 【デジタル的支援】

学生総合カルテを構築し、教職員一体となって情報共有を行い、個々のニーズにあった極め細やかな支援を実現します。

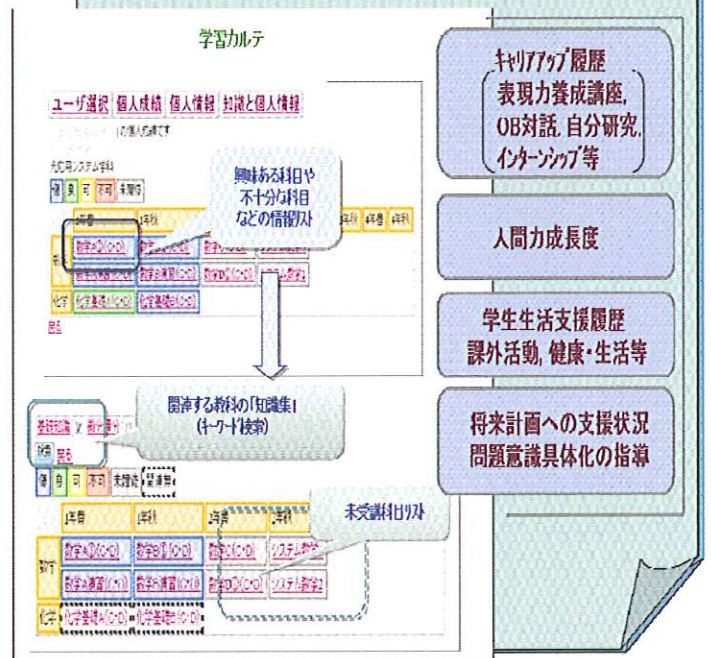
## デジタル的手法の例

### 現代GPの成果を活用



## 学習カルテから学生総合カルテへ

修学履歴・学習到達度とキャリアアップ履歴・人間力成長度を記録し、個別指導の拠とする



学生個々人の履修コース設定状況や受講科目の達成度を把握できる「学習カルテ」をベースに、レベルごとのプログラム等における取組状況や適性・得意とする分野等を加えた「学生総合カルテ」を電子的に作成し、厳重な管理のもと個別指導の原点とする。これにより、学生一人ひとりの成長度を適確に把握すると同時に、学生の個性を社会のニーズに様々な形で生かすことを目指す。レベル毎のプログラムにおける到達度は、学生個人の自己判断によることとするが、活動状況等を学生総合カルテに残すことにより、教職員との対話による面談の中から学生自身の自覚を促すように指導するとともに、成長度向上への支援に対するニーズも同時に汲み上げる。

学生総合カルテを通じて学生は、教職員との対話から将来の専門に向けたアドバイスを受け問題解決の方向性を得ようと共に、職員との対話から日常的な活動に関する支援を受け問題解決に「あきらめず」に取り組むことができる。

平成20年度は、カルテシステムの構築及び個々の情報の蓄積作業を行う。既存の「学習カルテ」を発展させ、研究室担当教員・各部署職員による「指導履歴」の共有、「キャリアアップ履歴」の学生、教職員の共有を図るためのシステム構築を行っている。さらに、キャリア形成支援のため、現3年生の「進路希望調査票」（紙媒体）の情報を本システムに蓄積する作業を行い、現3年生の就職活動においてシステムの試行を実施し、改良を図りつつ平成21年度に本格稼働するよう、作業を進めている。



日本で唯一、未来を創る光サイエンスを学ぶ

## 千歳科学技術大学

学生総合センター就職課

〒066-8655 北海道千歳市美々758-65

TEL(0123)27-6136 FAX(0123)27-6172

e-mail employ@guppy.chitose.ac.jp

# 自ら成長する教養人の育成支援プログラム

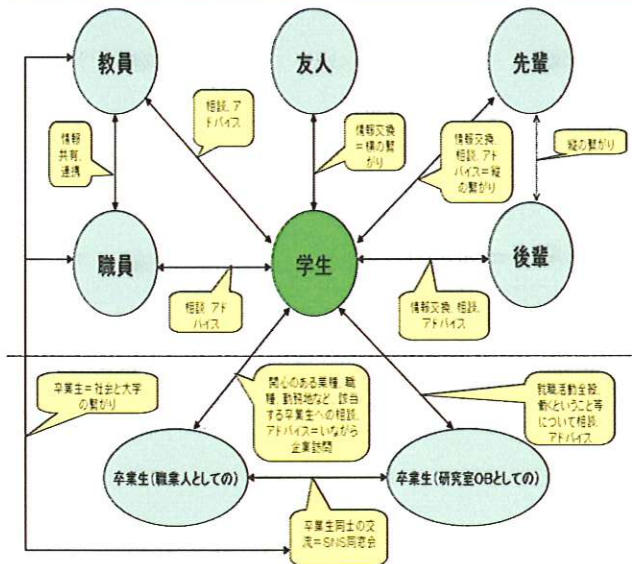
・アナログ・デジタル両手法を活用した成長度に応じた能動的キャリアアップ・人間力涵養システムへの変革・

## 【デジタル的支援】

**SNSシステム**を構築し、学生同士（同級生・先輩後輩）の交流、教職員との交流、卒業生との交流の場、さらに「SNS同窓会」として卒業生同士・卒業生と教職員の交流の場を設ける。

## SNSシステム

大学に関わる人々が、学生の成長を支援する



## 搭載予定の主なコミュニティ

★原則、実名を明かしたうえでの参加を想定★

### ● 就職相談コミュニティ

- ・学生と研究室教員、就職課職員
- ・学生と卒業生
- ・学生と内定を獲得した4年生
- 学生が学生を支援することで、双方の学生に有益である。SNSをツールとして活用し、就職資料室に内定学生を常駐させ、対面でのサポートも実施可能

### ● いながら企業訪問コミュニティ

- ・特定の企業に関する情報交換(学生と卒業生)
- ・特定の業種、職種に関する情報交換(学生と卒業生)
- ・本学教職員による経験談等の情報発信(学生と多様な経歴を持つ本学教職員)

### ● SNS同窓会

- ・約1500名の同窓生のための交流の場。卒業後も大学との繋がりを継続

SNSに自らが情報発信源として参加し、人的ネットワークを構築、展開できるようにする。さらにSNSを活用してネット型同窓会をこのSNSで実現する。卒業生の情報交換を活性化すると同時に、卒業生と在校生の間にもチャンネルを開くことで、学生は卒業生を通じて居ながらにして社会的ニーズを直接的に把握できる機会、即ち「いながら企業訪問」が可能となる。学生自らがOBらの生の声として企業情報を入手することで、これと従来型のセミナー・インターンシップ等のプログラムとを併せて現実の社会ニーズを把握する。また、別途開発する学生総合カルテは、卒業生の「質保証」のための学習指導に加え、個別面談を核としてキャリアアップの状況を記録することで学生ニーズの吸い上げを図る。これらを有機的に結合させるのが、「いながら企業訪問」および「SNS同窓会」を実現する「SNSシステム」である。学生の能動的参加を促しつつきめ細かな支援が行えるよう、教職員の積極的な支援等には万全の体制で臨む必要があると考えている。このように、大学に関わる人々全てを繋ぐネットワークを構築することで、大学全体で学生個々の成長を支援する体制を確立する。なお、これらデジタルツール単独で学生の成長を期待するものではなく、基本はアナログ的支援＝対面であることを前提に、アナログ・デジタル両手法を結合させることで、さらなる支援体制の強化を図り、学生の自らの成長を促すものである。

平成20年度は、SNSシステムの構築作業を実施している。また、適切なコミュニティ、カテゴリの設定検討を行う。さらに学生総合カルテとの連携し、個々の就職活動状況、キャリアアップ情報の入力をSNSシステムで行い、その内容を学生総合カルテに表示させることも検討中である。平成21年3月上旬に小規模試行を開始し、平成21年度以降に本格稼働を予定している。



日本で唯一、未来を創る光サイエンスを学ぶ

## 千歳科学技術大学

学生総合センター就職課

〒066-8655 北海道千歳市美々758-65

TEL(0123)27-6136 FAX(0123)27-6172

e-mail employ@guppy.chitose.ac.jp